

ミャンマーで見た“奇妙”な光景

ぶぎん地域経済研究所 調査事業部長 松本 博之

埼玉産業人クラブの経済視察団の一員として、県内中小企業経営者の皆さんと一緒に2月下旬にミャンマーを訪問した。その際に垣間見たミャンマー（ヤンゴン市内を中心）の光景をいくつか紹介したい。

日本人ビジネスマン

ヤンゴン空港での入国審査での光景である。ジャケット姿（一部はネクタイも）の、一見してそれとわかる日本人ビジネスマンの多さだ。そう言えばバンコクで乗り継いだ機内も思いのほか日本人が多かった。一方ではTシャツなどカジュアルな服装の欧米人シニア層の団体旅行客が陽気な声を上げている。この2つのグループが審査を待つ列を作っていた。

ミャンマーを訪れる日本人は急増しているが、その大半がビジネスマンだそうだ。

コンビニがない

ヤンゴンに着いた翌朝、ヤンゴンの中心地にあるホテル周辺を散策して驚いた。日本では当たり前のマクドナルド、スターバックス、ケンタッキー・フライドチキンが見当たらない。これまで初めて訪れた外国の街かどでこれらの店を発見すると何となく安心するという経験をしたものだ。

それに日本では当然の街の風景であるコンビニエンスストアのサインも全く見られない。聞けばコーラの輸入が正式に認可されたのが2012年9月からだとの話だから、この光景もやむを得ないか。いや、新鮮と言うべきかも知れない。

バイクが走らない街

東南アジアの大都市の映像を見ると、大量のバイクが大通りを占領している姿がよく見られる。これが各地の交通渋滞を引き起こす大きな要因とも言われている。

しかし当たり前前のバイクがヤンゴン市内では全く見られない。国民所得が低いからなのか？いや、そうではない。なぜなら中古車ながら日本製の高級車も多く見かけるからだ。理由は…かつて軍事政権が「バイクは反体制派に機動力を与える」ということでヤンゴン市内の乗り入れを禁止したからだそうだ。

ちなみに郊外部やヤンゴン川の対岸地区ではバイクが住民の貴重な移動手段となっている光景を見た。

右ハンドル右側通行

ヤンゴン市内を走る乗用車、バス、トラック等のクルマは大半が日本車の中古車である。日本で使われていた時の企業名なども消さずにそのまま使われているクルマも多い。であるから当然、クルマは右ハンドルとなる。しかし左側通行ではなく右側通行なのである。

これまでの右ハンドルの場合は左側通行、左ハンドルの場合は右側通行という常識は打ち砕かれた。ただ3日も居ると、何となく受け入れられてくるのも可笑しなものだ。

店先の自家発電機

ミャンマーは水力発電が主流であるため、乾季のこの時期は水量不足となり、十分な電気が来ないのが当たり前。聞けば、この時期電気が供給されるのは、1日5時間程度で残りの時間は自家発電機を使用して賄うほか手立てはない。商店や町工場では、軒先に自家発電機が当然のごとく鎮座している。

澄んだ瞳と微笑み

隣国タイは「微笑みの国」として有名である。ミャンマーも街なかに「微笑み」があふれていた。また多くの人の澄んだ瞳にも遭遇した。最近の日本では、なかなか見られない“奇妙な”光景でもあった。

（本稿は埼玉新聞3月8日に掲載したものです）